

1 学力検査結果の概要

表1 総点の得点分布

得点	685人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	62	9.1
80～89	134	19.6
70～79	133	19.4
60～69	125	18.2
50～59	105	15.3
40～49	64	9.3
30～39	39	5.7
20～29	20	2.9
10～19	2	0.3
1～9	1	0.1
0	0	0.0
平均点	66.6	

表2 小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	問1	62.2	
	問2	73.0	
	問3	84.7	
	問4	位置	63.7
		名称	60.7
	問5	55.1	
	問6	56.0	
	問7	74.9	
	問8	66.8	
	問9	68.1	
	問10	76.4	
	問11	80.1	
	問12	76.5	
問13	62.7		
小計		68.9	
2	問1	68.4	
	問2	43.4	
	問3	70.1	
	問4	89.8	
	問5	71.4	
	問6	73.4	
	問7	65.2	
	問8	52.7	
	問9	42.9	
	問10	37.7	
	問11	73.4	
	問12	93.5	
	問13	49.2	
小計		64.1	

大問	小問	正答率
3	問1	88.9
	問2	68.3
	問3	52.3
	問4	64.6
	問5	40.1
	問6	84.3
	問7	73.7
	問8	76.5
	問9	63.2
	問10	90.1
	問11	58.0
	問12	60.7
小計		66.6

2 分析結果の概要

平均点が、過去3か年の50点台から60点台に上昇した。理由としては、正答率が極端に低い小問が少なく、基礎的・基本的事項を中心に正答率の高い小問が多かったことが挙げられる。

分野別にみると、例年、歴史的分野の正答率が、他の分野に比べて低い傾向がみられたが、平成16年度は64.1点に上昇し、各分野間の平均点の差が小さくなっている。

出題形式別にみると、記述式の問題の中で、**2**の問13、**3**の問5のように、単に暗記しているだけでは解けない問題の正答率が、昨年と同様に低い結果が出た。

大問別の正答率の経年比較は、次の通りである。

大問	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
1 (主に地理的分野)	67.2	56.3	58.3	61.4	68.9
2 (主に歴史的分野)	55.9	52.6	51.5	50.8	64.1
3 (主に公民的分野)	75.5	52.6	57.7	60.7	66.6
全体	62.2	53.9	55.8	57.2	66.6

3 小問ごとの内容，ねらい

大問	小問	出題のねらい	主な観点			備考
			知識理解	思考判断	技能表現	
1	問1	これまでのオリンピックの開催国の特色を知っている。				
	問2	緯度・経度で世界地図中の都市の位置を特定できる。				
	問3	日本列島を含む太平洋沿岸部の造山帯を知っている。				
	問4	位置 温帯気候の雨温図を理解し，地図上で判断できる。				
		名称 温帯気候の気候要素を知っている。				
	問5	日本地図上で都道府県名が特定できる。				
	問6	アジアの新興工業国の総称を知っている。				
	問7	日本の資源輸入先と資源名を統計上で理解している。				
	問8	地形図から土地利用のようすを読み取ることができる。				
	問9	地図上の距離と実際の距離から縮尺を算出できる。				
	問10	扇状地の特色と景観を理解している。				
	問11	本県の面積や産業を他県と比較し，特色を理解している。				
	問12	早期水稻を理解し，その利点を述べることができる。				
問13	本県の少子化・高齢化を資料から気付くことができる。					
2	問1	歴史的人物の偉業とその年代を理解している。				
	問2	江戸時代の代表的な政治の内容を理解している。				
	問3	元寇後の鎌倉時代の政治と社会の特色を理解している。				
	問4	飛鳥時代の日本と中国との関係を理解している。				
	問5	飛鳥時代の日本文化の特色を理解している。				
	問6	南蛮貿易が戦国時代や江戸時代の政治と外交に与えた影響を理解している。				
	問7	検地・刀狩が近世社会のしくみに与えた影響を説明することができる。				
	問8	明治新政府の政策の内容を理解している。				
	問9	大正時代の歴史的できごとを理解している。				
	問10	戦後の歴史的できごとを時代順に並べ替えることができる。				
	問11	資料からアメリカで起こった世界恐慌に気付くことができる。				
	問12	前方後円墳の名称と形状を知っている。				
	問13	南北問題に対する日本の取組を説明することができる。				
3	問1	日本の内閣を組織している政党の総称を知っている。				
	問2	日本の選挙制度を理解している。				
	問3	日本国憲法の保障する基本的人権を理解している。				
	問4	日本の地方自治のしくみを理解している。				
	問5	議院内閣制のしくみを説明することができる。				
	問6	インターネットの問題点を説明することができる。				
	問7	地球環境問題の中のオゾン層の破壊を理解している。				
	問8	金融のはたらきとしくみを理解している。				
	問9	需要と供給の関係による価格変動のしくみを理解している。				
	問10	公正取引委員会の役割を知っている。				
	問11	バブル経済を知っている。				
	問12	国際社会における経済水域に関するルールを述べることができる。				

* 基礎的・基本的事項の設問には，備考欄に が付してある。

4 標準解答及び考察

1

標準解答

問1	イ	問2	C	問3	環太平洋 造山帯	問4	位置	あ	名称	偏西風
問5	愛知県			問6	アジアニーズ(NIES)					

考察

オリンピックの開催国の特色や日本との関係などを調べる学習を通して、各国の特徴などに関する地理的事象についての理解や資料活用能力などをみる問題である。

問5や問6では、日本地図を活用して都道府県名を書くという日本の地域構成についての理解や、日本の貿易の特色及び相手国・地域についての理解が不足していることが分かる。

そこで、指導に当たっては、学習の機会をある程度間隔をおいて適宜設定し、繰り返し学習ができるようにして、日本の地域構成に関する基礎的・基本的な内容の定着を図ることが大切である。また、身近な素材から課題を設けて行う学習など、生徒が興味・関心をもって取り組み、主体的な学習を通して、地名や地図及び諸地域の地理的事象への関心を高める必要がある。

標準解答

問7	エ	問8	(例)水田や桑畑が、果樹園に変わった。					問9	5万分の1		
問10	扇状地		問11	ウ	問12	(例1)台風の被害を、避けられる。					
問12	(例2)高い価格で売れる。				問13	(例)少子化と高齢化					

考察

資料活用能力・表現力、思考力・判断力とともに身近な地域や宮崎県について調べる学習という場面設定で、複数の資料を基に他県と比較した宮崎県の特色を問う出題である。

問8や問9のように、地形図から土地利用のようすを読み取ったり、地形図上の距離と実際の距離を基に縮尺を答える問題においては、資料活用能力、判断力が十分身に付いていないことが分かる。また、問13では資料を活用して、的確に表現する力が不足しているのが分かる。

そこで、指導に当たっては、地図や統計などの基礎資料を的確に読み取り、基礎的・基本的な内容との関連を確実に定着させる指導が求められる。また、資料を読み取り、それをまとめ、発表するなどの活動を取り入れることが大切である。

2

標準解答

問1	豊臣秀吉		問2	ア	問3	ウ	問4	イ	問5	エ	
問6	鉄砲 キリスト教		問7	(例)武士と農民との区別が明らかな社会になった。							

考察

文化祭で歴史の展示物を作成するという場面設定で、歴史上のできごとの大きな流れや歴史に関する重要事項の理解力、思考力・判断力などをみる問題である。

問2では、江戸時代の政治の特色が理解されていないことが分かる。問7では、歴史上のできごとの大きな流れを的確に表現できていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、わが国の歴史の大きな流れと各時代の特色を、世界の歴史を背景に理解させる必要がある。また、各時代の人物を取り上げる中で、その人物が果たした歴史的、社会的な役割や生き方を具体的に理解させ、多面的・多角的に取り扱うなど、学習内容への興味・関心を高める指導を工夫し、生徒の主体的な学習態度を育成することが大切である。

標準解答

問8	ウ	問9	イ	問10	エ	イ	ウ	ア	問11	世界恐慌	問12	前方後円墳
問13	(例) 先進工業国と発展途上国との経済格差を解消するため、政府開発援助(O D A)などを充実させる。											

考 察

生徒たちが話し合う学習や感想をまとめる学習を通して、各種の資料から歴史上のできごとの大きな流れや歴史的事項の理解力、資料活用能力・表現力などをみる問題である。

問8、問9、問10のような歴史的事象の時代の特定や並べ替えなどは、昨年に続いて正答率が低く、基礎的・基本的事項の定着が不十分であることが分かる。また、問13のように問題解決のためのわが国の政策を書く問題で、具体的な内容まで記述する力が不足していることが分かる。

そこで、指導に当たっては、資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断する場や、それを具体的な例を挙げて的確に説明する場を、授業の中で適宜設けていく必要がある。さらに、生徒自身が学習内容をまとめて、発表する機会を設けることも大切である。

3

標準解答

問1	与党	問2	イ	問3	ウ	問4	エ
問5	(例) 内閣は、国会の信任にもとづいて成立し、国会に対して責任を負うしくみ。						

考 察

時事問題に関するスピーチを行う学習という場面設定で、日本の政治や社会に関する重要事項や課題などについての理解力や表現力などをみる問題である。

問3や問5では、日本国憲法の基本的原則と議院内閣制のしくみに関する基礎的・基本的な内容の定着が不十分であることが分かる。また、理解した内容を簡潔に表現する力が十分に身に付いていないことも分かる。

そこで、指導に当たっては、時事的な内容を授業の中で適宜取り入れて、興味・関心を高める工夫を行うとともに、日本の政治などに関する内容だけでなく、「インターネットにおける問題点」や「環境問題」など、今日的な社会問題を主体的に考えようとする姿勢を育成する指導を日常的に行う必要がある。

標準解答

問6	(例) プライバシー情報の流出											
問7	(例1) オゾン層の破壊 (例2) 有害な紫外線の増加								問8	エ		
問9	(例) 需要量が供給量を上回っている				問10	ア		問11	バブル経済			
問12	(例) 200海里の経済水域を確保するため。											

考 察

資料を使いながら発表したり、テーマを設けて話し合うという場面設定で、日本の経済に関する重要事項や課題などについての理解力や思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

正答率の高い小問が多いが、問12では、写真資料から判断した結果を、基礎的事項を用いて的確に表現する力が十分に身に付いていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、社会の変化やしきみなどを理解させ、生徒が主体的に取り組む学習形態を日常的に展開し、思考力・判断力や表現力を育成する学習指導が求められる。また、基礎的事項を用いて、的確な表現で内容をまとめる指導を日常的に行うことが大切である。